



取材メモ

「鳥大防災Lab.」は、防災情報の発信や啓発活動を行う鳥取大学の学生サークルです。自ら、学内、そして地域の防災意識を向上させるため、意欲的に活動しています。



親子向け防災イベントの来場者に、応急手当の方法をクイズ形式で伝えるラボのメンバー（写真提供=鳥大防災Lab.）

親しみ生かして防災啓発

とりだい ラボ
鳥大防災Lab.

鳥大防災Lab.（ラボ）は、堤防やダムなどの建設技術を学ぶ工学部の学生を中心に、2019（平成31）年3月に発足しました。きっかけは、地域防災に携わる工学部教授の黒岩正光くろいわ まさみつさんの呼び掛け。「『学びを生かして学生主体で活動してほしい』という先生の発案に、サークル活動として取り組む面白さを感じた」とラボ副代表の合田剛ごうたらのよしさんは言います。

設立時のイベントでは、講演やパネル展で防災を日常的に意識する大切さを発信。活動に興味を持った学生も加わり、メンバーは8月現在で、15人です。

ラボでは、月2回

ほど行うミーティングに鳥取県自主防災活動アドバイザー（※）を招いて、知識を深めるほか、地域で行われる避難訓練のサポートや出前講座にも出向いています。

6月には、南部町からの依頼で避難訓練に参加。学生の声掛けや誘導支援が、訓練に参加した高齢者にとっても喜ばれました。

また、8月には、鳥取市立遷喬せんきやう小学校の放課後児童クラブへ。ラボ発足時から活動を共にする鳥取県建設技術センターと共同で防災教育の出前講座を実施しました。合田さんは「知識や経験不足はあるものの、私たちにはSNSでの発信や、親しいつながりを利用して、周囲の人を巻き込むことができる」と学生による活動のメリットを語ります。



ミーティングの様子。この日は災害用応急処置器具製造業者に段ボール製の添え木の使用方法を学ぶ



その他、「避難所運営ゲーム」の実施も。これは、避難所がどういう所かを学び、話し合いながらより良い運営に導く訓練ができるもの。代表の前田純平まへだ じゆんぺいさんは、「自宅に防災グッズを常備している学生はほとんどいない。災害への意識を変えるには、イベントでの発信は効果的。まずは自らの意識を変え、学内でも啓発したい」と意欲的です。

活動に関するお問い合わせは、鳥取大学地域価値創造研究教育機構の森田（0857・31・5922）まで。

取材を終えて

ラボの活動を通して自らも学ぶことができる学生たちの姿勢に、熱意と活力を感じました。（ヤ）

※自主防災活動を促進するために県が登録している、防災の専門知識・経験を持った人。地域の研修会や訓練で講義・助言する。